

近畿・中国・四国版

近畿支局

〒550-0004

大阪市西区靱本町1-13-13(カワコシビル)

TEL 080(3772)3113 FAX 06(6443)0062

HELLOの購読の申し込みはフリーダイヤル 0120-66-9201

「GOOD COMPANY」維持・継承

田中康崇・智頭石油社長に聞く



1972年10月27日生まれ。鳥取県出身。趣味はマラソン。旅行を兼ねて各地の大会に出場

智頭石油(鳥取県智頭町、出光系)では4月1日付で田中康崇執行役員が社長に、中本智昭執行役員が専務に就任。

米井哲郎社長は代表権のない会長に就任した。田中氏は「ビジョンを大切にしながら経営を発展、成長させる」と力を込める。



社長就任を打診されたのは1年以上前。昨年執行役員に就任し、準備しながら自分なりにいろいろ考えてきた。

社長の仕事は当然やったことがないし、社員も不安だろうと思い、しっかりした公約を打ち出すことにした。それは(経営理念である)「GOOD COMPANY」の継承、笑顔あふれる職場作り、全部門の黒字化、売り上げの大幅伸長、目標を達成した時の社員とのお楽しみ企画の5つ。

社員、取引先、地域といった自社を取り巻く全ての人々が「智頭石油で良かった」と思える会社作りを継続する。これにはゴールがない。ぶれずに継承し、地域に貢献していく。

社員全員が幸せ、やりがいを感じることができ、心身共に健康に働くことができる職場作りに努める。抽象的な話ではなく、離職率、求人応募率など具体的な数値で管理していく。

5月末から社内はアドレスフリーにした。机は電話とケーブルのみで、個人の席をなくした。社員にはオンとオフを切り替え、めりはりを付けて働くよう話している。

社員には、自ら考え、自ら動くよう期待している。指示待ちではなく、主体的に前向きに活発に考えて行動してほしい。

全部門の黒字化に関しては、現在実行している仕事の維持、継続、成長を図りながら、新しい仕事の情報を集めチャレンジする。電気はまだ手がけていないし、水素もチャンスがあれば事業化したい。顧客との接点は今まで通り大切にしながら、上流の仕事にも挑戦していきたい。

一方で一生懸命頑張っても成果が出ないこともある。社会の実情にずれているケースもあるのだろう。当初は合っている、時間の経過と共にずれていくこともある。

事業性、発展性の見込みに乏しい事業は継続期限を設け、場合によっては撤退する。方向転換するときは、必ず公言して実施する。

事業の利益率を改善するため、適正人員と経費の管理の厳格化は当然のことだが、縮小ではなく利益を上げる方向で進める。コスト削減より「もっとできるはずだ」という考え方に重きを置く。



鳥取市に導入した公用車管理システム。公用車1台ごとの稼働率を上げると共に、保有台数の削減が見込める

公用車管理システムに注力

業務のDX化もさらに推進する。郵送費が上がっている請求書は、顧客の意向を聞いた上でペーパーレスに移行していく。

足元の事業として力を入れているのが、地方自治体向けの公用車管理システム。アルコール測定器と鍵BOX機、予約管理システムが一体となって公用車の貸し出し業務を自動化するシステムだ。既に鳥取市、鳥取県、鳥取県倉吉市、高知県で受注している。

どこの自治体も公用車の管理は行き届いていない。シミュレーションすると20~30%の無駄が出てくる。システムを入れると初期コストはかかるが、すぐに元は取れる。

鳥取市の公用車は約100台だった。システム導入を機に60台に減らし、現在は50台になっている。

当社のシステムはオーダーメイドで、自治体の事情に合わせてカスタマイズするのが特長。アルコール測定器は当初オプションでスタートしたが、今では必須になった。これから公用車にEV、PHVが増えると予想されるので、充電量のコントロールマネジメントをオプション搭載する。

鳥取県の事例が自治体向けのメディアで報道され、それ以降問い合わせが増えた。自治体は国からDX化を進めるよう言われている。7月に東京ビックサイトで開催される展示会「自治体・公共week」に出展する予定だ。

ざっくばらん